

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100545		
法人名	有限会社ライフプランニング		
事業所名	グループホームひだまりの丘(ユニット1)		
所在地	北海道釧路市白樺台2丁目8番20号		
自己評価作成日	令和 元年11月15日	評価結果市町村受理日	令和 2年 2月 19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100545-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成元年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中にあり、過ごしやすい立地です。 季節ごとのイベント、行事も楽しんで頂けるように、職員全員頑張っています。 施設提携の病院、歯科も近くにあり、いつでも往診してもらえます。 健康状態に気を配り、安心して暮らしていけるホーム作りを目指しています。

当事業所は、「白樺台団地」の閑静な住宅街の中にある木造平屋建てで、中央の玄関を挟み左右に1ユニットづつに別れている。広い廊下、天窓付きの居間は陽ざしが入って明るく、共用空間は温・湿度を適正に管理し、清潔でゆったりとしている。管理者は看護師の資格を有し、利用者の健康を管理している。利用者は地域の盆踊りや花火大会、地域の湖水祭りを見学に行くなどして地域住民と交流している。また、事業所行事「夏祭り」には町内会役員などが参加したり、地域住民と一緒に畑の手入れを行ったり、地域のフラダンスボランティアが来訪して交流している。市役所主導型の「おたっしやクラブ」には積極的に参加すると共に、行事参加への呼びかけやビラ配布にも熱心に取り組んで地域の一員として活動している。職員は利用者個々の健康状態を把握して精神・身体面を見守り、毎日の生活で事業所にある器具を使って楽しみながら身体機能の維持を高められるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を交流スペースに掲げ、共有、実践へと繋げている	独自の理念を廊下や居間に提示している。毎朝唱和を行い、管理者と職員は理念を共有しながら、日々のケアに反映させている。昨年も理念の見直しに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の病院、美容室等を利用し、交流に努めている。	町内会活動に積極的に参加している。地域の保育園児やボランティアが来訪して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティア、中学生の現場見学等を受け入れ、活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催する時に、包括支援センターの職員や家族と意見交換を行い取り込めるように努力している。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、町内会、知見者、家族等が参加して、活動報告や火災避難訓練報告等を行い意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて協力している。	市担当者や地域包括支援センターとは、福祉関連の相談や生活保護手続きなどの意見や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の会議を通して職員に意識共有を徹底している。	身体拘束の適正化のための委員会で、身体拘束をしないケアの実践について話し合っている。事例を出して具体的な行為を正しく理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。SOSネットを通じて徘徊への対応も積極的に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隔月で会議を行い、防止している、外部の研修等には行く機会が少ないため、今後の課題にしている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は職員に学ばせる機会は無かった。勤務状況と照らし合わせ出席させていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には納得いくまで毎回説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	直接話す事とは別に、玄関に意見ボックスを設置し意見発言の機会を設けている。率直な意見は可能な範囲で実現できるよう努めている。	運営推進会議、家族来訪時や電話にて家族から意見を聞いている。率直な意見は可能な範囲で実現できるように努め運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、意見や話し合いを行っている。	管理者は日々の業務を通じて職員から意見や要望を聞き、随時その都度提案された案件は取り上げ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心ややりがいを持って働けるように整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内での教育は行っているが、人手不足もあり外部への研修や教育活動は出来ていない。今後の課題としている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	そういった機会は極端に少ない。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からの意見を聞き、ケアプランに反映させている。可能な範囲で努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を常に伺ってより良い関係になるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あればフェイスシートの情報と本人、家族からの情報を元に過ごしやすい環境づくりになるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のやれる部分は最大限活かしてもらう事を念頭にケアを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在多くの家族の方々から、身の回り品の補充や行事の際の手伝い等、協力頂いている場面が多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人知人等がいれば、手紙や電話等でのやりとりを推奨している。	馴染みの美容室へ行く等の支援を行っている。町内のボランティア等が来訪し馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間にスタッフが入り、途絶えがちな会話の助けをしったりすることで、楽しい雰囲気作りを行っている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、家族からの相談等があれば支援出来る体制にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に伺っている。ホーム側なりに本人の生活しやすい状況を検討している。	毎日の暮らし中で一人一人の何気ない言葉から、希望や要望を把握し、職員全員で共有してケアに繋げている。困難な場合は家族に相談しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階で頂いた情報で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に観察し、努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議の場で、各担当者からの変化の有り無し等、その他意見を出してもらいプランに反映するように努めている。	毎月カンファレンスを行い、利用者、家族の意向を反映させ6カ月毎に介護計画を作成して家族に説明し確認印を得ている。また、特段の体調変化が見られるときには随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録として入居者全員分を記入し、それを元にプラン作成に役立てている。また見直し時と同様である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化というほどの部分は少ないかもしれないが、要望には出来るだけ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事への参加やボランティアの力も借りながら、出来る範囲で行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診往診で医師から意見をいただき、それに沿った対応をしている。	月2回の訪問診療がある。通院は家族同行が基本であるが可能な限り職員も同行している。管理者が看護師で随時利用者の健康管理を行っている。	

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化には全職員が気を配っており、変化があった場合には、看護師を通して、受診等をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院期間、退院後の生活の注意等、必要な指示に従い対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態悪化時の家族の意向を確認し、職員間で共有している。	重度化した場合について、入居時に利用者と家族に説明を行い同意を得ている。利用者の身体状況が変化した場合は家族の意向や要望を確認し、随時職員間で話し合い情報を共有して希望に添えるよう支援している。	職員会議の中で終末期に向けた支援についての議題を揚げ、中でも「看取りの取り組み」に迫られた課題であり、看取りに伴う職員の心のケアにも配慮しながら「看取りの出来る環境整備」を整えることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、緊急時の対応手順は掲示してある。また緊急連絡先もリスト化してある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して防災意識を共有している。	2018年の地震をきっかけに備品や備蓄を見直し、昨今の異常気象に対応したマニュアルの見直しをしている。厳寒期の災害を考え、暖房器具も備えるよう対応している。また、家族や地域のボランティアが参加して夜間を想定した避難訓練を実施した。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時にはプライバシーを尊重している。	排泄誘導等の際は、耳元で小声で伝える等、羞恥心に配慮した声かけに心がけている。職員は尊厳やプライバシーに気をつけながら接遇に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から問いかけ、希望があれば対応するようにつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る範囲で対応している。身だしなみもそうだが、体調管理のために、気温の適した衣服を着てもらっている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みは多様だが、取り入れられるように工夫している。	利用者の嗜好を把握し献立に取り入れるようにしている。利用者の残存能力に応じて準備や後片づけを行っている。食事形態も刻み食や、ミキサー食等を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとに、水分の摂取量や食事量を確認し体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、出来ない場合はスワブ等を使って口腔清掃を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日行っている。	個々の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行い排泄の自立に取り組んでいる。利用者の身体状態によりリハビリパンツやパット等に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するためにヨーグルトや乳製品の摂取、軽めの運動、場合によっては下剤を服用し管理している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	要望があれば、対応している。	週2回以上の入浴を基本としている。利用者の体調や希望などによって時間帯を考慮しながら支援を行っている。入浴時は職員と気軽に話しながらリラックスした入浴をしている。入浴拒否の場合は担当者を変更したり時間帯を替えたりしながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転になりやすいため、日中の運動を取り入れ、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いように、二重にチェックを行い、内服を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内の手伝いや、買い物、ドライブ等で気分転換を図っている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と外食等にでかけられている。外出は積極的に支援している。	利用者の体調や天候を見ながら町内を散歩したり、近隣のスーパーへ買い物に行ったりしている。また、季節によっては盆踊りや花火大会を見に行っている。お正月には実家で過ごしたりするなど、家族との外出に対して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には本人が所持しているおこづかいで、買い物を楽しめるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は電話や手紙のやりとりは、殆ど機会がないが、要望があれば支援していきたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をし、清潔を保持しているので快適に過ごして頂けていると思う。	居間や食堂は清潔に掃除が行き届き、吹き抜け天窓で明るく快適に過ごせる環境にある。一日中居室に籠ることが無く、利用者が個々に居間の長椅子で寛いたり小上がりで話したをしたりしている。また、洗濯物をたたむ人もおり、それぞれが好きなように過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自身の個室にこもる入居者はほとんど居なく、日中は交流スペースにて過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に持ち込まれた自身のイスやタンスがあり、今までに近い環境で暮らせていると思われる。	居室は明るく使い慣れた家具や馴染みの備品を持ち込んでいる。居室で好きな編み物をしたりしながら心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋の扉に名札を取り付け、間違い防止を行ったり、廊下の途中にイスを配置し、転倒防止の措置を行っている。		